

平成28年9月8日

<タイトル> ジオパークの講座で受講生が、エイらしき化石を発見しました

日頃より、佐渡ジオパークの推進にご理解とご協力ありがとうございます。

この度、ジオパーク市民講座に参加している受講生が発見した化石が貴重な化石と思われるためご紹介いたします。

発見された化石がエイの化石であるならば、佐渡では初めて、県内では2例目となります。今回の発見について、経過や化石の特徴などは下記のとおりとなっております。

発見日：平成28年8月6日(土) ジオパーク市民講座中級コース第5回目「化石からわかる佐渡の成り立ち」の講座中

発見場所：相川地内

発見者：受講生 中道 康夫（なかみち やすお）さん

経過等：別紙参照

同定者：(株)W&Iアソシエーツ石原 元 氏、上越教育大学 天野和孝教授

化石の特徴や示唆するもの：別紙参照

その他：①佐渡博物館にて、パネル等で展示を計画（10月の見込み）しています。

②ジオパーク全国大会で、ポスター発表を行います。

③佐渡市教育委員会で発行している調査研究報告書の中で、さらに調査を進め、掲載する予定です。

本件についての問合せ先

佐渡市教育委員会社会教育課ジオパーク推進室

電話(直通)0259-27-4185 担当:宇治

化石に関する内容:ジオパーク推進員 遠藤満久

【発見の経過】

8月6日の第5回ジオパーク市民講座で、「化石からわかる佐渡の成り立ち」をテーマに野外研修会を実施した。コースとして関の植物化石、平根崎の貝化石、中山の魚の骨、鱗の化石、沢根河内の貝化石を観察し、その特徴から佐渡の古環境の変遷を学ぶという構成であった。各観察地では、落ちている岩石の中から化石を探し、見つけた化石に対してジオパーク推進室指導員がその化石の名前や特徴を解説する形態で調査を行った。このような活動の中、中山の見学地点において、受講生の中道 康夫さんがエイと思われる化石を発見した。

【発見された化石の特徴など】

発見した化石は、幅5mm程度の鱗片の集合体で表面に粒状の突起が散在している。明らかに中山で産出する魚の鱗とは異なる形状であった。上越教育大学教授 天野和孝氏の見解は以下のとおり。



「エイの化石であることは断定できないが、過去に新潟県の上越の能生町(現糸魚川市)で発見されたエイの尾部とされるものによく似ている。もしエイの化石ならば新潟県では2例目の発見となり大変重要な試料であるため、今後の研究が必要である。」

【学術的意義と示唆するもの】

さらに天野氏は、次のようにも述べている。

「エイの化石は産出例が少なく、県内では1972年に上越での発見が報告されている。上越で発見されたものと同種と判明すれば、地層の対比に有効であり、学術的な価値を持つ。今回化石が発見された地層は、エイが産出してもおかしくない地層であり、今後は専門家に同定してもらい、調査研究を行うべき。」